



北陸地域の概要（2021年7月調査）

一般財団法人 北陸経済研究所
地域開発調査部 研究員 吉田聡子

景気の現状判断 コロナ禍にも僅かな好機を捉え、DI値は4か月ぶりに「改善」

現状判断指数(DI)は前月から4.0ポイント上昇の52.5となった。「夏休みに入った客が新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、直近の予約を少しずつ入れているようである(観光型旅館)」、「東京オリンピック、新型コロナウイルスの影響による在宅率の上昇に伴い、家庭内消費が拡大している。気温の高い日が続く、夏物商材の販売量が伸びている(スーパー)」と一部に明るい声があがる。また、「ブランドジュエリー、高級時計、絵画など、商品は限定的だが、好調に推移するものが出てきている。上位顧客が新型コロナウイルスの影響で旅行やイベントなどを敬遠し、これらの消費へシフトしている(百貨店)」という声の一方で、「マイカーでの遠出自粛の影響なのか、メンテナンス関連の動きがこの数か月落ちてきている。好調だったドライブレコーダーも下がってきている(自動車備品販売店)」との声もあり、外出控えによる影響は業種で明暗を分けている。

景気の先行き判断 感染急拡大の影響を懸念し、先行きDI値は3か月ぶりに「悪化」

3か月先を占う先行き判断指数(DI)は9.2ポイント下落の47.9である。「東京オリンピックが終わり、感染が拡大している状況である。ほぼ以前のような自粛状況になると考える。特に、週末の児童向けスポーツイベントの中止が深刻で、売上の悪化に直結しそうである(コンビニ)」と感染拡大の影響から家計動向がふるわない。さらに雇用動向もふるわず、「契約期限切れとなる案件の更新依頼が減少している。自社社員が担う範囲の拡大、体制変更にて乗り切りを図るためか、求人数が伸びない状況である(人材派遣会社)」と厳しい声があがる。「感染力が高い変異株への警戒心はこれまでの波とは異なった感染抑制の行動になる可能性があり、長期化を懸念する。9月中旬頃まで第5波の影響が出るとみている。65歳以下のワクチン接種が早期に進み、感染者数が抑えられた状態が続かないと本格的な回復には向かわないだろう(その他小売[ショッピングセンター])」。

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]

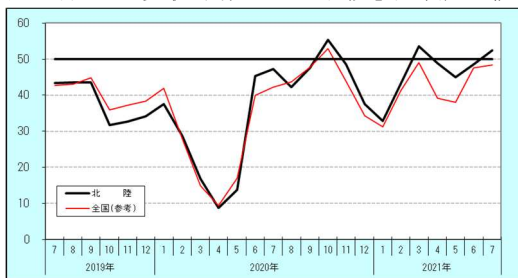
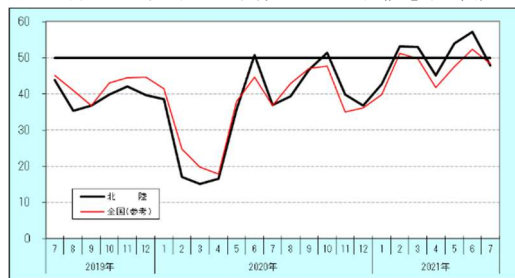


図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



●7月のアンケート内容

調査期間：2021年7月25～31日

調査対象：合計100名（うち回答者91名）

- (内訳)
- ・家計動向関連
 - ・企業動向関連
 - ・雇用関連

●景気の判断指数(DI)の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。